



2023年 定時社員総会 資料（議案書）

第1号議案	2022年度 事業報告	1
第2号議案	2022年度 収支決算報告	11
（報告事項）	2023年度 活動方針	15
（報告事項）	2023年度 委員会等一覧	16
（報告事項）	2023年度 日本デザイン学会組織	18
（報告事項）	2023年度 事業計画	19
（報告事項）	2023年度 予算	24

第1号議案

2022年度 事業報告

論文審査委員会

委員長 和文担当 佐藤浩一郎
英文担当 柳澤 秀吉

2022年度の投稿論文数は、和文誌『デザイン学研究』では51件、英文誌“Journal of Science of Design”では13件となった。掲載件数には、論文23件（和：13件、英：10件）、論説2件（和：1件、英：1件）、報告19件（和：10件、英：9件）となっている。ご投稿いただいた会員の皆様に御礼を申し上げる。

また、エディター制度に向けた取り組みとして、以下を実施した。

- ・デザイン研究における専門分野のアップデート
- ・エディターによる試験的な査読体制の整備とそれに基づいた査読の実施

今年度も多くの先生方に論文審査にご協力いただき、大変貴重なご意見やご指摘をいただきましたこと、この場をお借りして深く感謝申し上げます。

※以下のご協力いただいた先生方記（敬称略、順不同）
CHANG Ikjoon, Chang Wei-Chi, Chuang Yu-Hsing, Cruz Guerra Guerra Christian, Hung Chi-Sen, Li Shu Lu, LO TSAI-YUN, Wang Chao-Ming, ZHANG JUE, 赤澤 智津子, 蘆澤 雄亮, 池田 岳史, 石川 義宗, 磯野 誠, 板垣 順平, 伊藤 孝紀, 猪股 健太郎, 伊原 久裕, 今泉 博子, 植田 憲, 大鋸 智, 尾方 義人, 小野 健太, 郭 龍旻, 片山 めぐみ, 加藤 健郎, 加藤 大香土, 姜 南圭, 北 雄介, 桐谷 佳恵, 工藤 芳彰, 久保 光徳, 小西 文香, 小山 慎一, 近藤 祐一郎, 境野 広志, 坂本 和子, 佐々 牧雄, 佐藤 公信, 佐藤 浩一郎, 沈 得正, 下村 義弘, 白石 光昭, 杉野 幹人, 杉本 美貴, 曾我部 春香, 曾和 具之, 曾和 英子, 田中 佐代子, 田中 隆充, 田中 みなみ, 玉田

真紀, 寺内 文雄, 永井 由佳里, 中島 瑞季, 中島 永晶, 永見 豊, 中本 和宏, 西村 美香, 野宮 謙吾, 萩原 将文, 浜田 百合, 林 佳音, 樋口 孝之, 平田 一郎, 前川 正実, 松岡 由幸, 三橋 俊雄, 柳澤 秀吉, 山内 貴博, 山田 隆人, 吉岡 聖美

作品審査委員会

委員長 細谷多聞

「デザイン学研究 作品集 28号(2022)」は、作品29件（内8件作品ムービー添付）の掲載を、準備中である。例年であれば刊行を完了している時期であるが、会員の皆様には刊行までもう少々お待ちいただきたい。全投稿数は40件で、採択率は73%であった。今回採録にいたらなかった作品も含め、多くの投稿に感謝する。募集・審査・編集・刊行の経緯は、7/20学会webページなどでの作品募集の告知に始まり、9/12 投稿受付終了（社会状況から 8/31を延長）、9/20～11/31第1次審査、3/1～3/31第2次審査を経て、3/26著者への採録結果通知を行った。4月下旬に編集内容協議して正文社へ刊行作業を依頼し、5月に正文社からの校正依頼や学会事務局からの掲載料請求が著者へされている状況である。J-Stage上で刊行は6月を予定している。複数回に審査いただいた専門審査委員の方々、募集から審査、編集までのプロセスを担った本委員会委員と幹事みなさまへ感謝する。

学会誌編集・出版委員会

委員長 蘆澤 雄亮

特集号「デザインのこれから」(2021/Vol.29-1/105号)の発行が完了し、現在は特集号「研究部会のいま」(2021/Vol.29-2/106号)が最終校正段階にあり、まもなく発刊される予定である。企画および編集担当の皆様は御礼申し上げるとともに、発刊が遅れている状況をお詫び申し上げます。

委員：蘆澤 雄亮, 村井 洋平, 森 香織

研究推進委員会

委員長 柿山 浩一郎

研究推進委員会の主な活動は、1 研究部会の活性化、2 春季研究発表大会のテーマセッションの運営、3 秋季企画大会における企画運営などである。

2022年度は、以下の活動を行なった。

2に関しては、2022年6月24日～26日にオンラインで開催された第69回春季研究発表大会においてテーマセッションの募集を行い、8つのテーマセッションを実施した。ここでは研究発表と活発な討議がなされた。

3に関しては、2022年10月1日に慶應義塾大学 三田キャンパスにてZoomハイブリッド開催（学生プロポジションはオンラインのみ）で秋季大会を実施し、25件の学生発表が行われた。

2023度担当理事・幹事：小野健太, 石川義宗

企画委員会 総合企画

委員長 工藤 芳彰

主任務となる春季および秋季の大会については、新型コロナウイルス感染症の流行状況を踏まえ、6/24（金）～26（日）に開催校無しの完全遠隔形式で第69回春季研究発表大会（テーマ：変化“せられる”デザイン）を、10/1（土）にハイブリッド形式で秋季企画大会（開催校・慶應義塾大学、テーマ：デザインの哲学？日本の豊かさを再考する）を実施した。前者については、遠隔会議ツール（zoom）を主に、ヴァーチャルオフィス環境（ovice, ポスター発表用）を使用した。後者については、当学会担当のデザイン関連学会シンポジウムと同時開催とし、学生プロポジションのみ対面実施した。どちらも成功裡に閉会することができ、関係者の皆さまにあらためて御礼申し上げます。

企画委員会 支部企画

委員長 橋田 規子

教育成果集 2022 の参加者を募り、合計 40 名が投稿表明。

概要集編集委員会

委員長 永盛 祐介

春季研究発表大会概要集編集委員会は例年通り、投稿された概要の管理、確認、必要に応じて著者に修正依頼を行った。また、プログラムの編成、座長の依頼、編集、J-STAGE への掲載依頼等を行った。

教育・資格委員会

委員長 松岡 由幸

2022 年度は、学会の教育・研究における基盤向上を目的とし、他学会主催に連携するかたちで、以下の施策を zoom にて実施した。

まず、7 月 6 日、13 日、20 日の全 3 回にわたり、「デザイン科学基礎講座～人はなぜ、創造できるのか？」を行った。講師は、松岡由幸（慶應義塾大学/早稲田大学）、宮下朋之（早稲田大学）、加藤健郎（慶應義塾大学）、佐藤浩一郎（千葉大学）、井関大介（東京造形大学）の 5 名による。内容は、デザイン科学の基盤をなす AGE 思考モデル、デザイン二元論、多空間デザインモデルの 3 つの理論を、創造の”体幹”と位置づけ、講義する。

次に、7 月 30 日と 8 月 1 日に、「デザイン科学基礎講座（特別企画）『タイムアクシスデザインの新時代』」を実施した。

いずれも、実施した結果、盛況であったことから、次年度も継続する。

広報委員会

委員長 西尾 浩一

広報委員会の活動について学会 Web サイトへの新規投稿の状態について報告する。

2022 年度（2022 年 4 月から 2023 年 3 月まで）は 99 件の投稿があった。内訳は、研究部会 12 件、支部 8 件、学会誌編集・出版委員会（会報）2 件、春季・秋季大会関係 7 件（本部事務局からの投稿 6 件含む）、会員の著書 8 件、本部事務局 68 件となった。研究部会からの投稿は 17 件（2021 年度 29 件）の減少となった。一方、本部事務局からの投稿は 28 件の増加となり投稿総数は 2021 年度（100 件）とほぼ変わらないが、コロナ禍の 2020 年度 71 件から大きく改善している。会員の著書は 2020 年度 1 件、2021 年度 6 件、2022 年度 8 件となり順調に増加した。社会的な情勢の回復とともに学会活動活性化の一助となるよう学会 Web サイトの更新・整備に努める。

財務委員会

委員長 小野 健太

2022 年度の学会一般会計の収入は、およそ 5,000 万円であり、2021 年度からの繰越金がおおよそ 2,680 万で、繰越金を除いた収入の合計は 2,360 万程度である。2023 年度への繰越金がおおよそ 3,270 万であり、ここ数年繰越金の金額が増加傾向にある。ただこの傾向は増収に伴い繰越金が増えているのではなく、オンライン・デジタル技術の活用によりコスト削減が図られている部分もあるが、出版物の定期的に発行ができていないなど、学会活動の停滞により、予算が執行できていない部分が大きいと思われる。法人化に伴い大会会計が本体会計に組み込まれ、より学会の収益構造を把握しやすくするため、決算書、予算書の費目の整理を行った。

市販図書企画・編集委員会

委員長 寺内文雄

2022 年度本委員会では、「デザイン」を支える学会の図書企画について検討を行ってきた。デザイン学に寄与するデザイン研究に関する市販図書の出版のために、異なる領域や新

しい領域と連携しながら企画の検討を行なっている。

学会各賞選考委員会担当

担当理事 山中 敏正

2022 年度の学会各賞選考結果を報告する。

<研究奨励賞>

・山本 早里

公共空間における公共サイン、色彩環境デザインなどに関する総合的、継続的な取組の充実に加えて、構成デザイン、情報プロダクトデザイン、建築デザインという隣接領域の研究をさらに加えて発展させようという取組の発展性に対して。

本学会における参考業績：原著論文 4 件（うち 1 本は年間論文賞）、作品論文 4 件（うち 2 本は年間作品賞（筆頭 1 件、共著 1 件）、年次大会口頭発表 34 件）

<年間論文賞>

・古川園 智樹

パターン・ランゲージの誕生（1）～（4）（vol. 68, no. 1, pp39-48（クリストファー・アレグザンダー博士論文の「再発見」と分析）、pp49-58（パターン・ランゲージ関連史料の史料分析）、pp59-68（パターン・ランゲージのシステム理論）、pp69-78（パターン・ランゲージの哲学）、2021）

<年間作品賞>

・伊藤孝紀、長谷真彩、近藤宏樹、原希望

栄ミナミまちづくり会社によるプレイス・ブランディング（その 2）（b 類）

（vol. 27, no. 1, pp58-61, 2021）

・辻村和正、中野太輔、寛康明

Linecraft Modules 形状変化インタフェースの開発と利用をつなぐリサーチプロダクト（b 類）（vol. 27, no. 1, pp98-103, 2021）・

2022 年度学会各賞選考委員会

2022 年度の選考委員会は、旧来の基準による選考委員 10 名の構成が不可能であったため、6 月 24 日の学会総会の審議に基づき、これまでの学会賞受賞者および会長経験者を以下の体制に変更して実施した。

委員長：山中敏正

委員：宮崎 清、原田 昭、庄子晃子、
松岡由幸、久保光徳、村上 存、杉下
哲、井口壽乃、工藤芳彰

2022年度

春季研究発表大会実行委員会

実行委員長 佐藤 弘喜

第69回日本デザイン学会春季研究発表大会は、2022年6月24日～26日（日）の3日間で行われた。コロナ感染状況を考慮し、初めての試みとして開催校を設定せず、学会本部主催でのリモート開催として実施した。大会テーマを「変化せられる“デザイン”」とし、新型コロナウイルス感染や相次ぐ災害により暮らしや行動の変化が求められる状況において、デザインのあり方や研究のアプローチはどのように変化しているのかを考える大会となった。なお、リモート開催となったため前年に引き続き参加費を無料とした。

例年同様、初日は総会に引き続き基調講演を設け、2日目から研究発表を実施した。口頭発表セッション18、テーマセッション7、ポスターセッション2、オーガナイズドセッション8（公募による企画4、部会の提案による企画4）が行われた。結果として口頭発表177件、ポスター発表：61件、参加登録者数789名となり、対面での研究発表大会と遜色ない参加数であった。

新たな試みとして、ポスター発表に「oVice」のシステムを導入し、オンライン上の仮想ポスター会場で指定の場所にいる発表者が質疑応答をする形としたが、大きなトラブルもなく実施することができた。また、対面開催の場合に実施してきた懇親会はリモートでの会員交流会とし、学会各賞受賞者の紹介や会長賞の発表、上記の「oVice」システムの体験会などとして実施した。

開催校を設定せず、学会本部として直接大会運営にあたる形は初めてであり、また「oVice」による仮想空間でのポスター発表の導入など、学会と

して新たな試みを導入しながらも、新型コロナウイルスの感染の厳しい状況において、例年通りの春季研究発表大会を無事に終了することができた。フルリモートによる運営に関しては検討課題も見られたが、学会として大会運営のあり方を考える良い機会になったとも言え、今後の大会運営に活かしていくことを期待したい。大会実行委員として運営に携わっていただいた理事の方々、リモート発表の各会場の対応をしていたいただいた座長の皆さんや学生スタッフの皆さんのご協力に感謝したい。

2022年度

秋季企画大会実行委員会

実行委員長 加藤 健郎

2022年度日本デザイン学会秋季企画大会は、2022年10月1日（土）に、慶應義塾大学（三田キャンパス東館G-sec-lab）／Zoomのハイブリッドを会場とし、デザイン関連学会シンポジウムと共催で開催され、約276名の参加があった。大会テーマは「デザインの哲学～日本の豊かさを再考する」である。

デザイン関連学会シンポジウムは、日本デザイン学会、意匠学会、芸術工学会、道具学会、基礎デザイン学会（幹事学会順）という日本のデザインに関わる5学会の共催により、毎年、哲学を主なテーマとして実施している。このシンポジウムは、2016年に実施した本学会秋季企画大会において、各学会長が集い、「デザインの哲学～豊かさを再考する」をテーマに議論したことがきっかけとなり、スタートした。それ以降、各学会が幹事となり本シンポジウムが実施され、一巡したことを受け、ここに再度、本学会秋季企画大会において実施した。テーマは、2016年に実施したテーマを継承し、今回は、日本における豊かさと日本独自のデザインの在りようにフォーカスし、再考することとした。激動するグローバルな社会情勢、変革する科学技術、資本主義下における価値観と産業の在りようなどを

背景とし、人々の豊かさを再考する。それにより見えてくるこれからのデザインの在りようについて、日本のデザイン界における知のコンシリエンスの結実に向けて議論した。主なプログラムは、以下であった。

(1)特別講演：「デザイン関連学会シンポジウム、各学会長が語るこれまでとこれから」というテーマで、松岡由幸氏（慶應義塾大学／早稲田大学）の司会のもと、小林昭世氏（日本デザイン学会&基礎デザイン学会）、藤田治彦氏（意匠学会）、大井尚行氏（芸術工学会）、藤本清春氏（道具学会）が、各学会の概要紹介、幹事学会として実施したシンポジウムの結果報告、今後のデザイン関連学会連携への期待などについての講演が行われた。

(2)パネルディスカッション：「日本の豊かさとデザインを再考する」というテーマで、松岡由幸氏（慶應義塾大学／早稲田大学）の司会のもと、6つの講演とディスカッションが行われた。①原川宙氏（経済産業省商務・デザイン政策室長補佐）「デザイン政策における「デザイン」の変遷：～デザインは我が国の豊かさにどう貢献できるか～」、②津村真紀子氏（日本デザイン振興会）「グッドデザイン賞で見る『豊かさ』の変遷」、③石川義宗氏（道具学会、長野大）「『道具』という考え方の浮上：デザイナーたちは何と向き合っていたのか」④井上貢氏（芸術工学会、九州産業大）「言葉が育むデザイン」、⑤水内智英氏（基礎デザイン学会、名古屋芸大）「協働デザインプロセスにみる豊かさ」、⑥谷本尚子氏（意匠学会、京都精華大）「バタフライスツールからHIROSHIMAへーグローバリゼーションと木製椅子のデザインー」。

(3)学生プロポジション：対面形式で24名の学生がスライド・ポスター・作品を用いて発表を行い、活発な質疑応答や意見交換が行われた。厳選なる審査の結果、7件に優秀賞を授与することになった。担当：蘆澤雄亮、石川義宗、小野健太、柿山浩一郎、工藤芳彰、佐々牧雄。

■大会委員長：松岡由幸、大会実行委員長：加藤健郎、実行委員：蘆澤雄亮、

石川義宗, 小野健太, 柿山浩一郎, 工藤芳彰, 佐々牧雄, 井関大介, 小林昭世, 佐藤弘喜, 佐藤浩一郎

■ 2022 年度秋季企画大会 Website:
<https://sites.google.com/zokei.ac.jp/jssd2022fa/>



学生プロポジションの様子



特別講演・パネルディスカッションの様子

Design シンポジウム担当

担当理事 小野 健太

本シンポジウムは, 日本デザイン学会をはじめ, デザインや設計を上位概念とする日本機械学会, 精密工学会, 日本設計工学会, 日本建築学会, 人工知能学会により, デザイン・設計領域における知を総合する目的で会議を隔年開催している. 2022年度は, 2023年10月8日~9日, 建築会館ホールで開催される「Designシンポジウム2023」の運営について, 第1回運営委員会(2/15開催), 3月28日開催の第2回運営委員会(3/28開催)に参加した. 本学会からの委員は, 加藤健郎, 永盛祐介, 小野健太の3名である.

デザイン関連学会シンポジウム担当

担当理事 松岡 由幸

2016年の当学会秋季大会において, 芸術工学会, 意匠学会, 基礎デザイン学会, 道具学会の各会長が集い, デザイン哲学に関する議論を実施した. 本シンポジウムは, それを機に, 毎年, この日本におけるデザインに関する5学会が集い, 哲学などさまざまな横断的な議論を行う場である.

2022年度は, 本学会が幹事学会となり, 秋季企画大会とともに, 10月1日にzoomにて実施した. テーマは, 「デザインの哲学 ~日本, 豊かさを再考する」であった. 前半には, 各学会長から, このシンポジウムに関するこれまでの活動とこれからの構想・計画に関するお話があり, 後半のパネルディスカッションでは, 松岡のコーディネータのもと, 経済産業省原川宙氏, 日本デザイン振興会津村真紀子氏, 道具学会石川義宗氏, 芸術工学会井上貢一氏, 基礎デザイン学会水内智英氏, 意匠学会谷本尚子氏が講演された.

なお, 会議の内容については, 「デザイン関連学会ネットワーク」(J-Net DESIGN) にて報告されている.

IASDR担当

担当理事 小野 健太

IASDR2023 Milan Polytechnic University 大会に向けての準備を進める年であった.

COVID19の感染症拡大で世界中が大混乱している中, 10月10日, オンラインで理事会を開催し,

1. Board member confirmation for the IASDR 2022-2023 term
2. Treasurer for the IASDR 2022-2023 term
3. President for the term 2022-2023

コロナ禍でもあり, 会長選挙を行うことは困難であると判断し, 現会長による体制を2023年大会まで継続することとし, その次の会長の選挙については, 次回理事会(12月7日予定)から検討を開始し, 遅くとも2023年夏までに次期会長を内定し, 2023年のミラノ大会で報告することとした.

4. IASDR preparation

ミラノ大会の準備状況を確認し, 大会テーマ, CFPの手筈などを確認した. さらに近年の大会発表論文の質の低下について懸念を共有し, 傘下学会の関与を強めるべくそれぞれの母体の学会に積極的に, 査読, 座長などで協力することを依頼するように決定した.

12月7日に年度2回目のオンライン理事会を開催する予定だったが, 理事の都合が変動したため開催されなかった.

その後, 2023大会へのCumulusとの協力関係について開催校であるミラノ工科大から提案があり, 急遽1月24日に会長, 副会長およびアドバイザーとして前会長を加えて協議し, IASDR2023のプロモーションおよび一層の学術的貢献について協力関係を活用するという結論を得, Cumulusに伝達した. その後, 2023ミラノ大会は順調に投稿数を伸ばしており, それに伴って査読の協力依頼などが開催校側からあったことから3月のJSSD理事会などを通じて会員に協力を呼びかけた.

IASDR 理事 (2022-2023)

CID: Tung-Jung Sung, Fang-Wu Tung (treasurer)

DRS: Peter Lloyd (VP), Rebecca Cain

JSSD: Toshimasa Yamanaka (P), Kenta Ono

KSDS: Byung-Keun Oh, Tek-Jin Nam (VP)

CO-OPT: Lin-Lin Chen, David Durling

日本学術会議

第一部/人文・社会科学

担当理事 井口壽乃

日本デザイン学会を含む14学会よりなる芸術学関連学会連合は, シンポジウム開催を主な活動としている. 2022年度第16回シンポジウムは「疫病と芸術」をテーマに, 2022年6月11日(土)13:00~17:00 早稲田大学戸山キャンパス34号館151教室(ハイフレックス・対面とZoomの併

用)にて開催された.シンポジウムでは、疫病が変える社会、芸術は免疫た
りえるかについて、思想・歴史・実践
の視座から思考し、議論した.また
2023 度の活動として、17 回シンポジ
ウムを企画・立案した.「芸術と平和/
戦争」をテーマに 6 月 3 日(土) 広島
平和記念資料館メモリアルホールに
て開催することを決定した.

日本工学会

担当理事 小野 健太

日本工学会は、約 100 学協会によ
り構成される工学系学術団体である.
主に事務研究委員会を通じて、会員
学協会との話題提供や学協会運営な
どに関する最近の情報交換を行って
いる. 2023 年 3 月 4 日(土)に開催さ
れた「第 4 回世界エンジニアリング
デー記念シンポジウム」に日本工学会
所属学会として協賛させて頂いた.

機械工業デザイン賞審査委 員会担当

担当理事 小林 昭世

2022 年度の日刊工業新聞主催、機
械工業デザイン賞(IDEA)は、3 月より
募集を開始し、審査(青木弘行専門審
査委員会代表)を行なった. 最優秀賞
(経済産業大臣賞)、アマダ/アマダ
マシナリー デジタルプロファイル
研削盤, DPG-150 ソディック 高速造
形 金属 3D プリンタ LPM325S ほか 19
件を選定した. 日本デザイン学会賞
には、ホリゾン社の無線綴じ機を中
心として上製本にも対応するシステ
ム、「無線綴じ製本システム iCE
BINDER BQ-500」, を選定した.

横断型基幹科学技術研究団 体連合担当

担当理事 蘆澤 雄亮

本学会では 2018 年度より実施して
いる「コトつくり至宝発掘事業」に対
し継続的に協力を実施している.

2022 年度は「コトつくりコレクショ
ン」の推薦にあたり、グッドデザイン
賞の推薦について協力を要請され、
これを推薦し、コトつくりコレクシ
ョンに選定された.

選挙管理委員会

委員長 永盛 祐介

2022 年 1 月に 2022・2023 年度の会
長候補者・副会長候補者・地区理事
(支部長) 候補者・全国区理事候補
者・監事候補者の郵送による選挙を
2 月 9 日(水曜日)事務局必着で行
った. その結果、第 1 回目投票で全
ての当選者が確定せず、2 月 12 日の
「代議員会(オンライン開催)」出席
代議員 64 名程度(時間帯により参
加者数が変動)により、第 2 回目以
降投票をオンラインで行った. その
後、辞退者の申出受付と次点者の繰
上を行った. 繰上当選については、
同票の対象者がいる場合は若年者
を優先した. 選挙結果について以下
の通り報告する.

会長: 小林昭世

副会長: 佐藤弘喜

第 1 地区支部長: 福田大年, 同副支
部長: 岡本誠, 第 2 地区支部長: 橋
田規子, 同副支部長: 山本早里, 第
3 地区支部長: 黄ロビン, 同副支部
長: 川島洋一, 第 4 地区支部長: 益
岡了, 同副支部長: 赤井愛, 第 5 地
区支部長: 井上貢一, 同副支部長:
曾我部春香

全国理事: 蘆澤雄亮, 井口壽乃, 柿
山浩一郎, 加藤大香土, 加藤健郎,
工藤芳彰, 小泉雅子, 佐々牧雄, 佐
藤浩一郎, 水津功, 寺内文雄, 永井
由佳里, 永盛祐介, 西尾浩一, 細谷
多聞, 松岡由幸, 村井陽平, 森香織,
森田昌嗣, 柳澤秀吉

監事: 佐々木美貴, 山中敏正

第 1 支部

支部長 福田 大年

日本デザイン学会第 1 支部は、地
域に開かれた学会活動をコンセプト

に活動している. これまでにも仙台、
札幌、函館、秋田、山形、八戸、岩手
で、地域住民、学生、社会人、教員ら
がフラットにデザイン学の知見を交
流する場を作ってきた. 2022 年度は、
宮城県仙台市を舞台に第 13 回日本デ
ザイン学会第 1 支部大会をハイブリ
ッド形式で開催した. 以下に開催概
要を示す.

●第 13 回日本デザイン学会第 1 支部
大会「地域の見え方・接し方」

開催会場: ハイブリッド形式(仙台市、
オンライン)

開催日時: 2022 年 10 月 22 日(土) 10:
00~18:00

参加者: 60 人(仙台会場 41 人、オン
ライン 29 人)

プログラム(括弧内は参加者数、発表
件数): フィールドワークショップ
(以下 FWS、26 人) / オンラインワー
クショップ(以下 OWS、4 人) / 口頭
発表(5 件) / ライトニングトーク
(以下 LT、2 件)

大会実行委員長: 堀江政広(第 1 支部
幹事、東北工業大学)

大会運営委員: 阿部寛史、梅田弘樹、
坂川侑希、坂手勇次、下總良則(以上、
東北工業大学)

今大会は、東北工業大学が幹事校
となり、堀江政広(第 1 支部幹事、東
北工業大学)がリーダーのチームで
企画運営された. 大会テーマは「地域
の見え方・接し方」である. 地域で生
活する人、通勤・通学で利用する人、
出張・観光で来る人など、それぞれに
「地域の見え方・接し方」が存在する.
東北・北海道の各地域の捉え方を深
める場にすることを狙ったテーマで
ある. COVID-19 の感染管理を徹底す
るため、仙台市中心部の対面会場 2
箇所とオンライン参加者を常時 Zoom
でつないで実施した.

今大会のメインプログラムは、現代
版の俳画連歌(絵と俳句をセットで
作成しチームメンバーと見せ合う)
で街の視点を語り合う FWS と、地域
の名所を地元メンバーと他地域メン
バーとの捉え方の違いを語り合う
OWS である.

FWS のプログラムは、事前準備運動
と称して 6 月 24 日(金)に幹事 6 人

(岡本、中島、福田、堀江、元木、横溝)と東北工業大学の学生8名と試験運用した結果を踏まえて作成された。当日は26人の教員、大学院生、学部生が5チームに分かれて仙台市内を歩きながら、それぞれが出会った風景や出来事から俳画を詠んだ。チームごとに詠んだ俳画を対面会場で模造紙にまとめ発表し合った。同じ地域で同時間に見た景色から多様な視点で詠まれる俳画を基に「地域の見え方・接し方」の議論が活性化した。

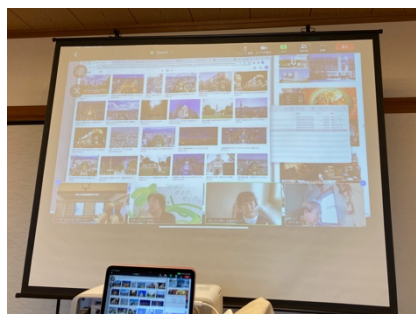


フィールドワークショップで詠んだ俳画を味わう様子



俳画を基にチーム発表する様子

OWSは、FWS参加者が仙台市内を散策する時間にオンライン参加者5人で実施した。参加者が住む地域の名所を、ネット情報を用いて紹介しながら地域内外で地域を捉える視点の違いを確認し合った。



オンラインワークショップの様子

口頭発表(5件)とLT(2件)はハイブリットで実施した。そして新たに「グラフィック・カタリスト」を導入した。グラフィック・カタリストとは、第一支部大会で昨年まで取り組んでいたグラフィックレコーディングを発展させたもので、発表者・観客をつなぐ新しい学会参加方法として考案した。化学反応を促す「触媒」を表すカタリスト(Catalyst)として、口頭発表やライトニングトークを聞いて生まれた自分の想い・問いを、発表の記録と共に紙にメモする。カタリストは発表の全てを記録する必要はなく、注目した点だけを記述するだけでよい。今年度は秋田公立美術大学の教員1人と学生2人(対面)、社会人2人(オンライン)がグラフィック・カタリストを担当した。口頭発表とLTの後の省察会では、カタリストの注目点を基に発表者、観客と語り合う。発表内容を自分ごとのように語るグラフィック・カタリストが議論を先導したことで発表者の研究を発展するきっかけが生み出された。

第2支部

支部長 橋田 規子

見学会を2回開催

①ミラノサローネ報告会

2022年8月30日18時半~20時半

【参加方法】オンライン(ZOOM)

環境部会と共同開催とし、47名の参加者が聴講した。

②「How is life? 地球と生きるためのデザイン」展

2022年12月5日15時~17時

【参加方法】対面(館長による説明ツアー方式)

見学場所 六本木TOTOギャラリー間
合計で28人が参加した。

第3支部

支部長 黄 ロビン

第3支部では今年度も支部に所属する会員の皆さん研究成果の交流を促進し、地域へのデザイン啓蒙を図るための様々な事業を行った。



参加者の団体記念写真

1.【第3支部研究発表会】

目的：研究発表を通し会員や学生の交流を深める。

発表内容：デザインに関係したあらゆるテーマを発表対象とした。発表者自身が行ってきたデザイン研究、今後のデザイン研究の方向性・発展性などについて、自由な発想で発表していただいた。

開催日時：令和5年2月18日(土)
11時~16時45分

内容：口頭発表、ポスター発表、表彰

会場：愛知県立芸術大学・新デザイン棟

参加者：55名

発表：30件(口頭18件、ポスター12件)

概要：コロナ禍以降、三年ぶり完全対面形式での開催。会長小林先生も参加してくれた。大人数の密集を避ける為、今回は学生発表のみで実施。受付の検温・消毒を徹底や、発表会場を常に開窓して換気、カイロの配布など、万全な対策を取り組んで行った。マスクの常時着用はもちろん、昼食は室外で分散して黙食、優秀発表賞の表彰のみで懇親会はなし。優秀発表賞受賞者：

■黒田 和花(名古屋市立大学)

「ユーザーが介入できる余白を残した製品とユーザー満足度の関係調査」

■原 蒼(金城学院大学)

「アップサイクル事業のモデルケース」

■川崎 怜央(福井工業大学)

「440mm Designer」

運営組織：

委員長：黄ロビン(第3支部長、名古屋学芸大学)

副委員長：川島洋一(同副支部長、福井工業大学)

運営委員長：影山友章(名古屋市立)

大学)

運営委員: 廣瀬伸行(愛知産業大学), 弓立順子(金城学院大学), 楊寧(椋山女学園大学), 村井陽平(福井工業大学), 西尾浩一『名古屋学芸大学』, 加藤大香士(名古屋市立大学)(順不同)



小林会長から優秀発表賞受賞者を表彰

2. 【第3支部報告集】

支部会員の日頃の研究活動・デザイン活動の発表の場として、平成30年度より「第3支部報告集」を出版している。

今年度の報告集には下記の投稿があった。報告集は第3支部研究発表会概要集と合本して電子出版をした。

1/中部大学・工学研究科・鈴木研究室 楊 佳錫

「AR空間におけるコンテンツデザインの改善のためのコンテンツとユーザー行動の連携データ生成手法の提案」

2/石川県工業試験場 餘久保 優子

「体幹の胸腹部を支持するベルトを弛める至適範囲について」

3/福井工業大学 近藤 晶

『つつじバス』ラッピングリニューアルデザイン」

3. 日本デザイン学会奨励賞第3支部学生の表彰制度につきまして、第3支部所属各教育機関において優秀な研究・制作活動を行った学生・大学院生を対象とした「奨励賞」を平成25年度からスタートした。学部・大学院各2名枠での会員推薦する形式によって、今年は数多くの学生が表彰された。

■金城学院大学: 原 蒼(アップサイクル事業のモデルケース～自動車の内装廃材を利用した商品開発～)

■名古屋学芸大学: 小澤 護正(エモーストコネクト), 日比野 太郎(EMIEL)

■椋山女学園大学: 加藤 舞(marble-廃プラスチックを使用した店舗什器の提案), 山田 玲愛(kaleido light-部屋を彩る投影式万華鏡)

■福井工業大学: 面谷 琢史(小説「1984年」をモチーフにしたタイポグラフィ・グラフィック制作), 米田 佳史(Rakubo 限られた生活空間を活かした創作家具)

■名古屋市立大学: 清島 樹(「収穫体験のメンタルモデル」を用いた木育什器の開発・検証)

■名古屋工業大学: 大橋 毅志(芽吹く町薬場), 村上 諒叡(伝統?芸から広がる居所-まちで?守るフリースクール-) (順不同)

4. 第3支部ウェブサイトの運営

第3支部その他の活動について、詳しい情報は「<http://jssd3b.jp/>」ご参照ください。

第4支部

支部長 益岡 了

日本デザイン学会第4支部は、2023年3月17日(金)に令和4年度研究発表会をオンラインで下記の通り開催した。



シンポジウム全体

開催日時: 2023年3月17日(金)

発表形式: オンライン

1, 13:00 開会 開会の挨拶

2, 13:05 シンポジウム 講演「デザインと教育」

第一講演者 村井 陽平(福井工業大学 環境学部 デザイン学科<シンポジウム開催時>)

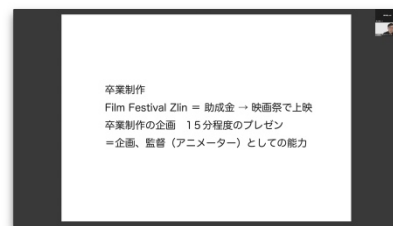
内容: 豊富な教育経験だけでなく、Royal College of Art Design Products 専攻留学の経験を加えた日英のデザイン教育のあり方について

第二講演者 仁藤 潤(和洋女子大学 人文学部 文化芸術専攻 准教授)



シンポジウム第一講演者

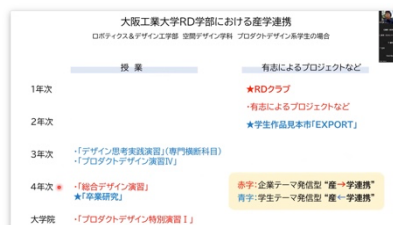
内容: チェコの Film school Zlin でのアニメーション映像制作の教育経験から、日本の学生評価との違い、教育姿勢や価値観の違いについて解説した。



シンポジウム第二講演者

第三講演者 赤井 愛(大阪工業大学 ロボティクス&デザイン工学部 空間デザイン学科 准教授)

内容: デザイン教育の産学連携や実践を通じた知見と合理的な進行(特に学内部署との連携)について、



シンポジウム第三講演者

その後、参加者からの質疑の時間を設け、活発な議論が行われた。

3, 14:30 研究発表第1セッション (座長: 赤井 愛 副支部長)

英国のデザイン教育カリキュラムと BBC Micro:bit

益岡 了(大阪工業大学)

地域活動における学生のモチベーション向上のためのアクションリサーチ —参加者の出番と居場所の創出— 大村莉乃(札幌市立大学デザイン学部), 片山めぐみ(札幌市立大学), 武田 亘明(札幌市立大学)

中国伝統村落の近代化の発展研究—中国貴州省東南部のミャオ族・トン族の伝統村落を対象に

沈 晏如 (shen yanru 東京造形大学)
プロレタリア演劇運動におけるグラフの利用

山本彩 (東亜大学)

菓子類外箱の調査と袋菓子紙器化の提案

梅野理菜 (大阪工業大学), 三浦慎司 (大阪工業大学)

4, 15:55 研究発表第2セッション (座長: 益岡 了副支部長)

ARを利用した空間検証ツールの提案
~商業施設における万引き防止対策~
川角典弘 (和歌山大学), 輪玉隼也 (和歌山大学大学院)

元素記号を用いたヴィジュアルデザインのためのタイプフェイスの模索
齋藤 琢真 (静岡理科大学), 定國 伸吾 (静岡理科大学), 櫻井 将人 (静岡理科大学), 松田 崇 (静岡理科大学)

Evaluating the Influence Factors on Cultural Awareness Between Traditional Japanese Customs and Technological Items

Lalitnuntapun Mathavee (Iwate University), Peng Jiang (Iwate University), Takamitsu Tanaka (Iwate University)

Investigate Thai Textiles using Japanese Modernized Techniques and Compatibility with Thai Usage Scenarios

Nitipisanon Ketsiri (岩手大学), Peng Jiang (岩手大学), Takamitsu Tanaka (岩手大学)

5, 16:55 閉会

令和4年度は、コロナ以前では行われていた基調講演をシンポジウムとして、また概要集の発刊も復活できた。また第4支部以外の参加も多く、全国から57名の参加があり、研究発表では9つの発表があった。

比較的研究ジャンルが幅広く地域的な広がりがあり、英語に発表や活発な質疑もあった。講演者、発表者、参加者各位の協力により、活発な交流が図れたことを報告する。

第5支部

支部長 井上 貢一

第5支部では「2022年度第5支部発表会」を、2022年10月29日(土)、オンラインで開催した。本発表会は、研究発表とライトニングトークの2つのカテゴリを設けているが、オンラインベースでの3回目となる今回は、研究発表49件、ライトニングトーク14件、合計63件と、昨年よりも大幅に発表件数の増加があった。またエントリーの状況にも変化があり、第5支部の会員や学生に加えて、北海道、関東、関西、中国地区からの参加があるなど、オンライン開催の継続・浸透が支部エリアの境界を消失させた感がある。



第5支部発表会の様子1

今年度の発表会も、幹事大学を設置せず、支部の役員が実行委員会を編成して企画・準備・運営を行った。また、従来からの取り組みを継承し、Wikiを用いた発表概要のWeb公開、発表者に対する発表証明書の発行、またライトニングトークにおけるベストトーク賞の選定も行った(詳細は会報にて報告済み)。ライトニングトークにおける高校生発表枠の設定も含め、第5支部の特徴的な取り組みとして、次年度の発表会でも同様に継続したい。

なお、過去4年間の発表概要は、すべてインターネット上に下記のアドレスで公開されているので、関係の皆様の研究・教育の参考としていただければ幸いです。



第5支部発表会の様子2

第5支部発表会アーカイブ

<https://design.kyusan-u.ac.jp/jssd5th2022/>

本部事務局

本部事務局長 佐藤 弘喜

2022年度末の会員数は、正会員1,392名、学生会員数246名、名誉会員79名、賛助会員数27件、年間購読会員37件となっている。正会員と学生会員を合わせた会員数は1638名で、昨年の同時期(1,667名)と比較して29名の減となった。

昨年度は、2022年に発生した新型コロナウイルス感染の問題が続いたため春季大会は前年度に引き続きオンライン開催となったが、秋季企画大会では感染が収束傾向であったことから、オンライン配信も取り入れながら久しぶりに対面で開催することができた。学会事務局の対応や理事会活動なども長く特殊な対応が続いたが、最近では徐々に正常化しつつある。

このコロナ対応の期間に、会員管理システムを導入したことや、2023年度の春季大会に向けた登録システムに参加費のオンライン決済を導入したことなど、コロナ対応を契機として事務局作業を効率化することができた。ただしまだ会員管理システムには改良すべき点もあるため、部分的な修正は必要である。今後も柔軟な対応で会員サービスの維持向上に努めていきたい。

教育部会

主査 金子 武志

2022年度の教育部会では下記の通り、デザイン教育研究会を年度を通じて1回だけ開催した。

<活動概要>

2023年2月25日(土) 14:00~16:30
会場: 日本デザイン福祉専門学校 学生ホール (渋谷区千駄ヶ谷)

参加者: 25名

進行: 金子武志 (日本デザイン学会教育部会主査)

テーマ: 『蒐集についての一考察 ~モノとの縁, ヒトとの縁~』

発表者: 中川英之 (gallery 坂 オー

ナー／日本デザイン福祉専門学校特別セミナー講師)

概要：

新型コロナウイルス感染症拡大のために丸3年間対面での研究会は休止状態であったが、3年前に企画した中川英之氏の『収集についての一考察～モノとの縁、ヒトとの縁～』を氏の快諾によって、ようやく実現できる運びとなった。実際のコレクションなども多数持参いただき、参加者には面前で直接鑑賞できる場面もあり、オンラインでは感得できないモノから発せられる情報に其々感じ入るところが大きかった。後半では活発に質疑応答が行われ各人の経験談を共有することができた。

発表内容(抜粋)：

なぜ人は蒐集するのか？興味がない人にはまるで理解不能な不可思議な行為である。蒐集する対象物は多種無限にわたり、モノが持つ魅力、その魅力の捉え方も人其々だが、モノを蒐めるということは、それ自体が一つのデザインであり、一つの創作である。モノを蒐めることは、そのモノを生み出したヒトに興味を持つことでもある。なぜその素材なのか、その作風にいたる道程はどのようなのか、今挑みたい表現は何か、など興味は尽きない。このようにモノを巡る夢想は果てしなく広がり、モノが帯同してくれる世界は人生に深みを与えより豊かにしてくれる。

環境デザイン部会

主査 佐々木 美貴

環境デザイン部会の2022年度年間テーマは「サステイナブル環境デザイン～SDGs」とした。2011年度以降続いた「震災後の環境デザイン」などを経て、2016年度「これからの仕組みー持続可能な環境デザイン」などからの近年の流れを継続しつつ、世界全体で取り組まれているSDGsに向けた部会員の研究等を共有し、発信している。

その一環で、持続可能な地域の発展を目指し、古民家「遊志庵」を拠点に様々な活動を行っている。

「あまべ文化研究所」(代表：岩佐礼子氏、大分県佐伯市)の事前現地見学+遠隔リモート・ヒアリングを開催し、続くコロナ禍のなか部会員が遠隔などで参加した。まとめの報告はEDplace96号に掲載した。

また、2022vol. 29-2 106「研究部会のいま」デザイン学研究特集号に、ED部会が執筆した。2021年度秋季企画大会における公開オンライン部会「環境デザイン(小)会議～マッピングを通して見えてきた環境デザイン部会の世界～」での、アンケート、オンライン会議内容を記載するとともに、さまざまな領域で活動する部会員から「環境デザイン部会員が専門とする環境デザインの世界」を13名の執筆で紹介している。その後の2022年度春季研究発表大会オーガナイズドセッションでオンライン開催した、「変化“せられる”デザイン～環境デザイン編～」の内容の要約と意見交換・質疑応答を続いて掲載している。



古民家「遊志庵」

タイポグラフィ部会

主査 伊原 久裕

タイポグラフィ部会では、2022年度は、タイポグラフィに関する研究領域の充実を図ることを目的とした活動を行った。そのひとつとして、学会春季大会においてタイポグラフィ部会としてテーマセッションを企画した。セッションのテーマを「タイポグラフィへの視点／タイポグラフィからの視点」とし、従来の専門領域に限らない多様な領域からの新鮮な視点によるタイポグラフィ研究の発表を求めた。もうひとつの活動として、部会の目標のひとつとしていたデザイン学会特集号の企画がある。特集号のテ

ーマと執筆者について、幹事を中心に検討を行い、テーマを「タイポグラフィにおける書体—その研究・デザイン・使用の現在」とした。また部会員を中心に執筆者を募り13名の執筆者(予定)が決まり、準備を行っている。2022年度は、2名の新会員を迎え、会員数は18名となった。

家具・木工部会

主査 新井 竜治

第69回春季大会にて2件の口頭発表を行い、いずれにおいても有意義な意見交換が見られた。その2件は、新井竜治(芝浦工業大学)「全国籐製品新作品評展示会の特質・意義・問題」と谷本尚子(京都精華大学)「京都市の大正期から昭和初期における西洋家具業界の成立」であった。いずれも我が国の産業発展の実態に迫る重要な内容であり、有意義な意見交換も見られた。家具の研究は、インテリアデザインとプロダクトデザインの両面に関わるという性質があるうえ、人間工学、材料学、機械設計といった理工学としての探究もある。文理融合の多様性が本部会の良さであるため、さまざまな分野の研究者が集まる学会発表になるよう、今後も意欲的な発表に努めたい。

10月に臨時総会をメールによる持ち回り審議で実施した。それにより、次年度から主査・石川義宗(長野大学)、幹事・滝本成人(椋山女学園大学)、幹事・谷本尚子(京都精華大学)とすることで決定した。なお、そのための引き継ぎはおおむね完了した。

デザイン史研究部会

主査 立部 紀夫

コロナ禍のため、従来から行っている本部会独自の研究発表形式の研究会は本年度も中止せざるを得なかった。

デザイン科学研究部会

主査 松岡 由幸

2022 度は、他学会との連携のもと、デザイン科学の基礎的な理論をテーマとした講習会の実施を教育・資格委員会との共催で実施した。具体的には、7月6日、13日、20日の全3回にわたり、「デザイン科学基礎講座～人はなぜ、創造できるのか?」を5名の講師（松岡由幸（慶應義塾大学/早稲田大学）、宮下朋之（早稲田大学）、加藤健郎（慶應義塾大学）、佐藤浩一郎（千葉大学）、井関大介（東京造形大学））で行った。

加えて、7月15日に「デザイン塾:”創発”の本質と日本人～新たな時代を拓くために」をオンラインで開催した。ここでは、SKY DRIVE 社による「空飛ぶクルマ」、井関大介氏による「感動を生み出す新Mメソッド」、伊豆裕一氏による「つなぐデザイン:表現技法からデザイン思考まで」などのご講演が実施された。

さらに、6月にオンラインで開催される春季大会ではテーマセッション「多空間デザインモデル、デザイン理論・方法論」が企画されており、多くの方々の活発な議論が行われた。

子どものためのデザイン部会

主査 赤井 愛

2022 年度は第 69 回春季大会において、10 年目となるテーマセッション「子どものためのデザイン」を開催、7 件の口頭発表があった。参加者はオンラインでの発表にも慣れ、質疑やセッション後のディスカッションにおいても、和やかな雰囲気の中で、活発なやり取りを重ねることができた。また、同大会オーガナイズドセッションでは部会企画『子どもの問いに応えるデザイン』を実施した。登壇者である川村哲也氏（COLEYO Inc.）、横山季代子氏（沖縄美ら海水族館）、柚木泰彦氏（東北芸術工科大学）、塩瀬隆之氏（京都大学総合博物館）の4名から子どもの問いに応える多彩な取り組みの事例が示され、熱気あふれる充実した時間となった。2022 年度もまた新たな知見と共に、これからの「子どものためのデザイン」につい

て思考する機会を多くの方々と共有できたことに心から感謝申し上げる。

プロダクトデザイン研究部会

主査 山崎 和彦

本年度の主な活動は、1) 日本デザイン学会第 69 回研究発表大会にてテーマセッション「ビジョンと体験デザイン」を企画して 13 件の口頭発表を実施、2) 関連団体(人間中心設計機構、X デザインフォーラム等)とのイベントの開催、3) プロダクトデザイン研究に関連する情報発信(日本デザイン学会 Web サイト、プロダクトデザイン研究部会 Facebook 等)などの活動であった。

タイムアクシスデザイン研究部会

主査 柳澤 秀吉

2022 年度においては、6 月に開催された春季大会でのテーマセッションとタイムアクシスデザインの基礎的なタームをテーマとした講習会を実施した。

春季大会にて、テーマセッション「タイムアクシスデザイン」をデザイン科学研究部会との合同セッションで実施し、口頭発表 6 件が行われた。セッション中は多くの質疑がなされ活発な議論を行うことができた。

また、7月30日と8月1日に、「デザイン科学基礎講座（特別企画）『タイムアクシスデザイン（TaD）～日本人の精神的遺産を生かす、豊かさを再考する～』」を行った。本講座では、具体的な事例を交えながらタイムアクシスデザインの理論や方法論の解説がなされた。企業、研究・教育機関から多くの方々にご参加いただき、様々な質疑が積極的に行われた。

第2号議案

2022年度 収支決算報告

I 貸借対照表（収益事業）

貸借対照表：収益事業

（令和5年3月31日現在）

単位：円

科 目	金 額	科 目	金 額
（資産の部）		（負債の部）	
流動資産	0	流動負債	0
固定資産	0	固定負債	5,843,469
有形固定資産		法人会計	5,843,469
無形固定資産		負債合計	5,843,469
投資その他の資産		（純資産の部）	
		一般正味財産	-5,843,469
		純資産合計	-5,843,469
資産合計	0	負債・純資産合計	0

II 損益計算書（収益事業）

損益計算書：収益事業

（自令和4年4月1日 至令和5年3月31日）

単位：円

科 目	金 額	
【経常損益の部】		
（経常収益）		
事業収益	1,083,000	
企業展示ブース賃貸料	0	
論文集売上 年間購読会員	1,083,000	
電子図書閲覧収入	0	
学会誌売上他	10,020	1,093,020
（経常費用）		
事業費用	1,812,350	
論文審査料	699,150	
論文PDF作成料	1,113,200	
管理費用（収入按分）	419,861	2,232,211
経常利益		-1,139,191

III 貸借対照表

貸 借 対 照 表

（令和5年3月31日現在）

単位：円

科 目	金 額	科 目	金 額
（資産の部）		（負債の部）	
流動資産	32,676,124	流動負債	70,000
現金及び預金	32,676,124	未払法人税等	70,000
固定資産	0	固定負債	
有形固定資産		負債合計	70,000
無形固定資産		（純資産の部）	
投資その他の資産		一般正味財産	32,606,124
		純資産合計	32,606,124
資産合計	32,676,124	負債・純資産合計	32,676,124

Ⅳ 損益計算書

損 益 計 算 書

(自令和4年4月1日 至令和5年3月31日)

単位：円

科 目	金 額	
【経常損益の部】		
(経常収益)		
事業収益	23,593,954	
正会員年会費	15,401,500	
新入会員	1,350,000	
賛助会員	728,900	
年間購読会員	1,083,000	
学生会員	1,300,000	
学会誌掲載負担金	2,000,000	
作品応募料	120,000	
大会発表費	1,434,000	
雑収入	176,554	
財務収益	247	
受取利息	247	23,594,201
(経常費用)		
事業費用	8,566,138	
オンデマンド印刷	530,387	
選挙経費	0	
論文審査委員会	699,150	
作品審査委員会	0	
論文集	1,113,200	
特集号	1,587,960	
作品集	0	
概要集	343,090	
大会補助費	1,758,268	
オーガナイズドセッション	467,759	
キーノート講演費用	0	
国際デザイン会議	0	
研究部会活動費	252,252	
支部活動補助費	380,974	
広報費	9,220	
学協会関連	172,399	
出版物通信費	249,298	
概要集編集委員会	682,000	
特集号編集委員会	130,000	
総会準備経費	0	

学会各賞選考委員会	27,661	
Designシンポジウム補助費	0	
封筒費	64,020	
慶弔費	98,500	
管理費用	9,063,217	
給料手当	4,620,000	
アルバイト雇用費	583,500	
通信費	396,704	
消耗品費	58,255	
水道光熱費	172,160	
支払手数料	154,666	
賃借料	1,800,000	
保険料	113,600	
租税公課	10,450	
経營業務コンサルタント料	165,000	
通勤費	200,360	
印刷費	123,915	
運営経費	45,080	
理事会運営経費	62,124	
会員管理システム利用料	462,000	
雑費	95,403	17,629,355
経常利益		5,964,846
(経常外損益の部)		
経常外収益		
経常外費用		0
税引前当期純利益		5,964,846
法人税、住民税及び事業税		70,000
当期純利益		5,894,846

V 決算書

(一般会計)

■収入の部

項目	予算額	決算額	増減 対予算額	決算額内訳
2021年度繰越金	26,781,278	26,781,278		26,781,278
1 会費 (現)	16,073,200	15,856,500	-216,700	正会員@13,000×1,185名 学生会員@6,500×70名 455,000
2 会費 (新)	2,090,000	2,195,000	105,000	正会員@18,000×75名 (一般 入会金: 5,000, 年会費: 13,000) 学生会員@6,500×130名 (学生 入会金: 免除, 年会費: 6,500) 845,000
3 賛助会員費 (現)	780,000	698,900	-81,100	24件 698,900
4 賛助会員費 (新)	30,000	30,000	0	1件 30,000
5 年間購読会員費 (現)	1,050,000	1,083,000	33,000	@25,000×45件 1,083,000
6 年間購読会員費 (新)	25,000	0	-25,000	0件 0
7 広告費	50,000	0	-50,000	0件 0
8 学会誌掲載別刷料・負担金	2,890,000	2,120,000	-770,000	論文掲載料 作品集審査費 作品集掲載料 前年度作品集掲載料 1,800,000 120,000 0 200,000
10 春季研究発表大会	1,320,000	1,434,000	114,000	参加費 研究発表費 懇親会 補助金 学会大会補助金 預金利息 0 1,434,000 0 0 0 0
11 秋季企画大会	500,000	24,000	-476,000	参加費(学生プロポ)24件 補助金 レセプション参加費 24,000 0 0
12 雑収入	150,000	176,801	26,801	学会誌売上 NIH-ELS還元金、補助金、預金利息等 その他 寄付 9,400 166,781 620 0
計	51,739,478	50,399,479	-1,339,999	50,399,479

■支出の部

項目	予算額	決算額	増減 対予算額	決算額内訳
本部事務局 & 理事会関係				
1 本部事務局経費	10,820,360	9,071,093	-1,749,267	消耗品代 58,255 運営経費（春季大会出張費用含む） 45,080 職員給与（@180,000×12,@230,000×2）+（@150,000×12,@100,000×2） 4,620,000 通勤費（@5,000×12）+（@14,090×4,@6,000×12） 200,360 施設設備費 0 通信費及び電話代金 396,704 印刷代 123,915 雑費 95,403 会費引当経費 154,666 賃料（@150,000×12ヶ月） 1,800,000 光熱費 172,160 アルバイト雇用費（宛名整理、書類作成、発送、名簿管理補助等） 583,500 経営業務コンサルタント料 165,000 会員管理システム利用料 462,000 租税公課 80,450 労災保険料 113,600 会場借用料、理事会運営経費等 62,124 選挙に関する費用 0
2 理事会運営費	250,000	62,124	-187,876	
3 選挙経費	0	0	0	
学会誌審査・編集関係				
4 論文審査委員会経費	700,000	699,150	-850	699,150
5 作品審査委員会経費	300,000	0	-300,000	作品集編集費 0
6 学会誌編集・出版委員会経費	100,000	0	-100,000	0
7 特集号編集委員会経費	390,000	130,000	-260,000	第29巻2号編集委員会 0 第30巻1号編集委員会 0 第30巻2号編集委員会 130,000
学会誌印刷・通信関係				
8 印刷費	12,131,000	3,638,657	-8,492,343	論文集（6冊） 1,113,200 特集号・前年度分（1冊） 1,587,960 特集号（0冊） 0 作品集（0冊） 0 論文集・作品集オンデマンド印刷費 530,387 概要集CD-R 343,090 封筒代 64,020
9 出版物通信費	1,000,000	249,298	-750,702	郵送料・事務代行料金 249,298
大会関係				
10 2022年 春季研究発表大会	2,000,000	1,525,562	-474,438	コンテンツページ制作他 0 講演料等 0 アルバイト雇用費 416,010 会場費・会場設営費 0 懇親会費 0 Confit 962,500 ZOOM 87,047 oVice 55,000 事務費 0 消耗品費 0 雑費 5,005
11 2022年 秋季企画大会	500,000	256,706	-243,294	Webサイト制作 0 ZOOM 0 会場費・会場設営費 198,000 アルバイト雇用費 44,000 送迎バス 0 チラシ作成費 0 懇親会費 0 会場費 0 消耗品費 0 通信費 0 雑費 14,705
12 2023年度春季研究発表大会	500,000	0	-500,000	準備費 0
13 春季大会概要集編集（準備金）	350,000	682,000	332,000	アルバイト雇用費（2022年度分） 49,500 演習登録システム（PASREG）利用料（2023年度春季分） 632,500
14 春季オーガナイズドセッション費用	240,000	467,759	227,759	7件 467,759
15 キーノート講演費用	90,000	0	-90,000	0件 0
16 学会セミナー費用	100,000	0	-100,000	0
17 総会準備経費	0	0	0	総会経費、委任状・資料印刷代 0
18 学会各賞選考委員会経費	100,000	27,661	-72,339	書籍作成費（学会各賞推薦状・資料・記念品代等） 27,661
19 国際デザイン会議	0	0	0	国際デザイン会議会費（500\$） 0 国際デザイン会議活動費（運営会議活動費） 0
20 Designシンポジウム補助費	0	0	0	0
委員会関係				
21 委員会経費	200,000	0	-200,000	0
22 研究部会共通経費	500,000	252,252	-247,748	共通費（5研究部会） 252,252
23 支部活動補助費	750,000	380,974	-369,026	5支部 380,974
24 市販図書企画・編集経費	50,000	0	-50,000	編集費 0
広報関係				
25 広報費	150,000	9,220	-140,780	大会ポスター、チラシ通信費 0 ホームページリニューアル 0 ホームページ管理・運営 9,220
その他				
26 学協会関連	335,000	172,399	-162,601	学術会議活動費（@30,000+@30,000） 0 秘術学関連学会連合シンポジウム分担金 15,000 日本工学会活動費 0 日本工学会会費 27,399 CPD協議会会費 50,000 日刊工業新聞社 30,000 横断型基幹科学技術研究団体連合会費 50,000 横断型基幹科学技術研究団体連合活動費 0
27 予備費	20,183,118	98,500	-20,084,618	蔵書費 98,500 その他 0
26 繰越金	0	32,676,124	32,676,124	32,676,124
計	51,739,478	50,399,479	1,339,999	50,399,479

[特別会計]

	2021年度	2022年度	増減	決算額内訳
学会本部事務局常設基金	20,366,916	20,367,803	887	利息(887)：基金に繰り入れ

2022年度収支決算につき、上記のとおり報告いたします。

2023年5月31日 一般社団法人日本デザイン学会

本部事務局 佐藤 弘道 本部事務局 小野 健太 本部事務局 松原 久枝 杉田 美幸

監事 山中 敏佳

監事 佐々木 義典

2023 年度活動方針

会長：小林昭世

コロナ禍はなくなったわけではありませんが、私たちはかつての日常生活を取り戻す期待を持てるようになり、同時にデザイン研究やデザインの実践をコロナ禍以前とは異なるステージで取り組み始めました。

アカデミックな研究の話題として、ここで「G サイエンス」の話題を取り上げることが最適かどうかわかりませんが、気候変動、海洋、データの共同開発・共同利用、健康とウェルビーイング、高齢者健康増進、若年者活躍の場、社会的平等性、社会と科学（科学がどのように役立つか）、などなどの話題にみられるように、デザイン研究とデザイン実践の活動の範囲は拡大されていくように期待されます。デザインには、それら個々の課題解決に貢献するだけでなく、見定め難さがありますが、将来へのビジョンを作って、示していくことも期待されています。

本年、日本デザイン学会は創立 70 周年を迎えますが、例年の活動に加え、将来へのビジョンを「集合的」に検討することを活動の一つに加えたいと思います。集合的とは、デザイン研究に参照され、パイロットとなる関係諸学会、デザインを研究対象とする国内外の学会、そして学術とは異なる仕方で社会とのエンゲージメントを構築しうるデザイン実践を推進する諸団体・協会との協力と連帯をアプローチとしてデザイン学会の将来へのビジョンを検討したいと思います。

(1) 学会誌等

2022 年には研究の基盤となる論文集、英文ジャーナル関係の方々のご尽力により、停滞することなく定期的に刊行することができました。作品集と特集号について刊行が遅れましたが、刊行すべく作業をしています。

現在、論文集における論文投稿区分の改訂作業を行なっていますが、これは研究活動を自省し、将来の研究課題を再提起しながら、論文等の投稿を活性化するものです。

また、2022 年より各賞授賞制度の見直しを行なっていますが、これは論文投稿区分の改訂と相まって、研究を活性化させるものと期待します。

(2) 研究大会

2022 年春季大会は、事務局をはじめ研究推進委員会、企画委員会、概要集編集委員会、などなどを中心に理事会全体の運営により、遠隔で活発な研究大会を実現することができました。また、秋季大会は、松岡由幸先生、加藤健郎先生を中心に慶應義塾大学を会場として、デザイン関連学会ネットワーク共催のパネルディスカッションを遠隔で、そして学生プロポジションを対面で開催しました。

2023 年春季大会は蘆澤亮介先生をはじめ芝浦工業大学の先生方のご尽力により、久しぶりに対面による研究大会を準備することができました。多くの方々ご参加し、対面で意見を交わし、活気のある春季大会になると確信します。

秋季大会は、冒頭に述べた通り、関係諸学会、デザインを研究対象とする国内外の学会、そしてデザイン実践を推進する諸団体・協会との関係のもとで、集合的に、デザインとデザイン研究について自省し、将来へのビジョンを話し合う予定です。

(3) 2023 年の課題

2023 年の諸活動につきましては、各委員会、支部等の活動計画をご覧ください。それらの活動の延長には、これまで通り、(a)対象領域の拡大 (b)研究・教育基盤の向上 (c)他団体との連携強化という目標があります。

・他団体との連携と交流については、山中敏正先生が会長の IASDR2023 が、10 月にミラノ工科大学で開催されます。IASDR をはじめとする国際会議へ本学会をゲートとして積極的な参加を増やすことは研究基盤の向上にとって重要な課題と考えます。

・支部活動はコロナ禍にあっても、関係者のご努力により、遠隔により活動を継続してきました。2023 年は支部活動をはじめ、本学会が連携あるいは加盟する日本工学会、学術会議との関連で発足した学会

連合や横幹連合，デザイン研究を目標とする学会の連合組織である Design シンポジウム，デザイン関連学会ネットワークなどの活動についても，コロナ禍以前のように対面での活動が活発に再開されることを想像すると，嬉しい予感がします。

2023 年度 委員会等一覧

本部事務局	事務局長	副事務局長	幹事
	佐藤弘喜	蘆澤雄亮 加藤健郎 佐藤浩一郎 小野健太 *	吉澤陽介 田邊里奈

委員会	委員長	委員	幹事
論文審査委員会	佐藤浩一郎 (和文誌担当)	加藤大香士 永井由佳里 森田昌嗣	小山慎一
	柳澤秀吉 (英文誌担当)	井口壽乃 加藤健郎 村上存 *	
作品審査委員会	細谷多聞	小泉雅子 水津功 森香織 大島直樹 *	
学会誌編集・出版委員会	蘆澤雄亮	村井陽平 森香織	
研究推進委員会	柿山浩一郎	小野健太 * 石川義宗 *	
企画委員会・総合企画	工藤芳彰	佐々牧雄	
企画委員会・支部企画	橋田規子	福田大年 黄ロビン 益岡了 井上貢一	
教育・資格委員会	松岡由幸	佐藤浩一郎 井関大介 *	
広報委員会	西尾浩一	大島直樹 *	
財務委員会	小野健太 *		
市販図書企画・編集委員会	寺内文雄		
春季研究発表大会概要集編集委員会	永盛祐介	柿山浩一郎 石川義宗 *	小宮加容子

支部	支部長	副支部長	幹事
第 1 支部(北海道・東北地域)	福田大年	岡本誠	
第 2 支部(関東地域)	橋田規子	山本早里	
第 3 支部(北陸・中部地域)	黄ロビン	川島洋一	廣瀬伸行 弓立順子 影山友章 村井陽平 楊 寧 滝本成人 池田岳史 加藤大香士 西尾浩一

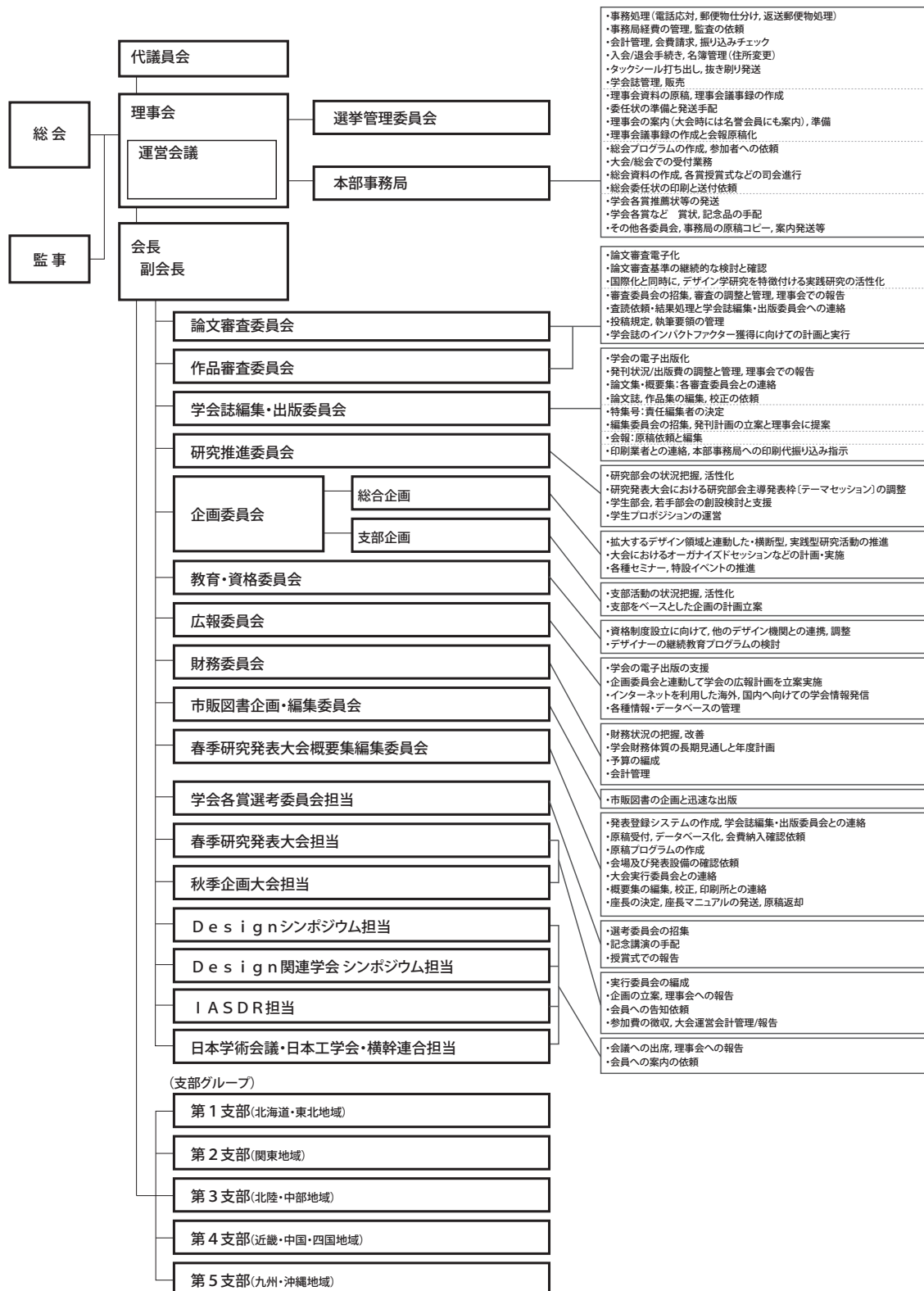
第4支部(近畿・中国・四国地域)	益岡了	赤井愛	
第5支部(九州・沖縄地域)	井上貢一	曾我部春香	岩田敦之 梶谷克彦 迫坪知広 鶴野幸子 中村隆敏 西口顕一 原田和典

学会各賞選考委員会	委員長	委員	
<協力委員会>	松岡由幸		
佐藤浩一郎（論文審査委員会和文誌）			
柳澤秀吉（論文審査委員会英文誌）			
細谷多聞（作品審査委員会）			
委員会等担当	担当		
Design シンポジウム担当	小野健太＊	加藤健郎 永盛祐介	
デザイン関連学会シンポジウム担当	松岡由幸	加藤健郎 井関大介＊	
IASDR 担当	小野健太＊	加藤健郎	
日本学術会議担当	井口壽乃(第一)	村上存＊(第三)	
日本工学会担当	小野健太＊		
横幹連合担当	蘆澤雄亮		
機械工業デザイン賞審査委員会担当	小林昭世		

運営会議			
選挙管理委員会 ※2023年7月31日まで	委員長	委員	
	永盛祐介	森岡大輔 加藤健郎 吉澤陽介 中島瑞季	

監事	佐々木美貴	山中敏正
----	-------	------

2023年度 日本デザイン学会組織



2023 年度事業計画

論文審査委員会

委員長 和文担当 佐藤浩一郎
英文担当 柳澤 秀吉

2023年度は、昨年度に引き続き、デザイン学領域の研究・教育基盤のさらなる向上に向けた活動を推進していく。和文誌『デザイン学研究』については採択論文の多様性の拡充、投稿数の増加や審査期間のさらなる短縮を目指していく。英文誌“Journal of Science of Design”については学術水準の確保と国際的認知度の向上に向けたエディター制度への変更を検討していく。両誌の目標達成に向けて、以下を実施していく。

- ・新しい研究領域も含めたデザイン学の専門領域の設定
 - ・ワークショップや教育などの実践系の受け皿となる論文種別や査読方法の再考
 - ・論文誌独自の特徴・特質の明確化
- これらについて、秋季企画大会において、会員の皆様と議論できる場を設定する予定である。

昨年度に引き続き、多くの会員の皆様にご投稿いただけるよう、迅速な対応を推進していく。

作品審査委員会

委員長 細谷 多聞

2023 年度も「デザイン学研究・作品集」の充実を目指す。昨年度の募集・審査スケジュールが予定通りに進められなかった経験を踏まえ、今年度は厳格な審査進行に努める。作品募集は7月初旬開始とし、8月31日を投稿期限、その後の審査は1次・2次とも年内を目処に完了させ、2月の刊行を目指す。作品の募集に関する各種告知については従前どおり、広報ならびに日本デザイン学会 Web ページをご確認いただきたい。昨年度の経験から審査作品が多様化していることを改めて実感している。審

査委員会としても、専門委員を広く確保し、万全な審査体制で臨む所存である。会員の皆様には時代に合った広い領域からの応募を期待したい。なお、本年度の委員は、大島直樹、小泉雅子、水津功、森香織、小宮加容子（幹事）細谷多聞（委員長）の6名である。

学会誌編集・出版委員会

委員長 蘆澤 雄亮

現在、タイポグラフィ部会を主体とした特集号企画、ファッションデザイン部会を主体とした特集号企画の計2本（2022年度分）が執筆活動に取り掛かっている。2023年度もデザイン学に寄与するデザイン研究に関する市販図書の出版のために、異なる領域や新しい領域と連携しながら企画を検討する。学会の皆さまや異領域の研究者の方々に、ご協力をお願い申し上げます。

研究推進委員会

委員長 柿山 浩一郎

研究推進委員会の主な活動は、1 研究部会の活性化、2 春季研究発表大会のテーマセッションの運営、3 秋季企画大会における企画運営などである。

2023 年度は、新型コロナの影響下から脱し、例年の対面による学会活動が可能になる見込みであることから、オンラインの良さも活かしつつ、特に研究部会の活性化がすすむ企画を春季大会や秋季大会で検討したい。

2023 度担当理事・幹事：小野健太、石川義宗

企画委員会 総合企画

委員長 工藤 芳彰

主たる任務となる春季および秋季の大会運営については、対面実施の利点とコロナ禍に得られた知見を踏まえ、ユニバーサル性を高めていきたいと考えている。関係者のご理解

ご協力をお願いしたい。活動計画については、6/23（金）～25（日）に芝浦工業大学豊洲キャンパスを会場に完全対面式にて第70回春季研究発表大会（テーマ：学びのデザイン）を予定している。計画中の秋季企画大会を含め、詳細は決定次第、学会ホームページ等でお知らせする。なお、今年度の委員は引き続き、工藤（拓殖大学）の他、佐々牧雄（関東学院大学）の計2名である。

企画委員会 支部企画

委員長 橋田 規子

教育成果集の編集と発刊
現在投稿中で発刊は来年6月中旬。
6月のデザイン学会大会で配布予定。

教育・資格委員会

委員長 松岡 由幸

昨年度は、他学会主催の講座・講習会に連携するかたちでいくつかの施策を行った。2023年度においても、他学会との連携を継承するが、本学会主催による講座・講習会の実施を図る。

具体的には、デザイン演習を組み込んだかたちで、7つの原則を用いたタイムアクシスデザイン講習会、およびMメソッド講習会の実施を検討する。

今後は、学会員が有するさまざまな技術や専門性を活かし、リスクリソグ・再教育に関する活動の活性化を、学会全体として進めていきたい。

広報委員会

委員長 西尾 浩一

本年度の広報委員会は、学会活動の活発化に対応できるよう引き続き Web サイトの情報更新の迅速化を進めシームレスな情報配信に努める。支部や研究部会からの情報更新方法（個別 ID を用いたニュース投稿）について、部会/委員会内での引継ぎ、伝達がうまくいっていない事例が見られるため、更新方法の説明と配信

のサポートに注力し、より円滑な情報更新を後押ししたい。「会員の著書」等の投稿についても活用していただけるよう広報に努める。

財務委員会

委員長 小野 健太

学会出版物のオンライン化、事務員二人体制、一般社団法人化による大会会計の本部会計への取り込み、コロナ禍による大会のオンライン開催など、近年、学会・大会の体制が大きく変化しており、変動要因が大きいため、学会として適正な財務状況を見極めるのが難しい状況が続いている。引き続き、学会としての適正な財務状況を見極めるのに尽力していきたいと思う。また円滑な事務員の交代のため、事務員の給与システムについて、検討を進めたい。

市販図書企画・編集委員会

委員長 寺内 文雄

本委員会では昨年度に引き続き「デザイン」を支える学会の図書企画の検討を進める。デザイン研究に関する市販図書出版のためには、各委員会だけでなく、学会員の皆様のご協力が必要不可欠と考えている。何卒お力添えいただけますようお願い申し上げます。

学会各賞選考委員会担当

担当理事 山中 敏正

2023年度学会各賞審査委員会は以下の構成で実施致する。

委員長：松岡由幸

委員：検討中

Design シンポジウム担当

担当理事 小野 健太

本シンポジウムは、日本デザイン学会をはじめ、デザインや設計を上位概念とする日本機械学会、精密工学会、日本設計工学会、日本建築学会、

人工知能学会により、デザイン・設計領域における知を総合する目的で会議を隔年開催している。2023年は、建築学会が幹事学会として、2023年10月8日～9日、建築会館ホールにて開催を予定しており、それに向けた準備・運営にメンバー学会として努めていきたい。本学会からの委員は、加藤健郎、永盛祐介、小野健太の3名である。

デザイン関連連学会シンポジウム担当

担当理事 松岡 由幸

2023年度は、意匠学会が幹事学会として、9月30日に、オンラインにて実施する。テーマは、「ソーシャルデザイン | 過去・現在・未来」であり、本学会からは、工藤芳彰氏がパネリストとして参加する。

本シンポジウムでは、シンポジウム当日のみならず、事前に、3カ月に1回程度で、DESIGN SQUAREと呼ばれるミーティングをZoomにて実施し、シンポジウムではその成果が織り込まれて行われる。DESIGN SQUAREも開かれたミーティングとして自由に議論する場であり、参加希望者はふるって、担当理事の松岡までご連絡いただきたい。

IASDR担当

担当理事 小野 健太

2023年は、ミラノ工科大学でIASDR Congressを開催する(10月9日～14日)。4年ぶりの対面大会となり、期待が高まる場所である。大会準備のために5月18日に理事会を開催し、次期会長の選出の手続きについて、また、2025大会の開催について、などを検討することとなる。

世界的なコロナウイルス禍というパンデミックを経験しIASDRの会員学会も変化する中で、世界のデザイン学研究に関するIASDRの役割を再確認・再構築するなど、重要な事項について議論を深めていきたい。

日本学術会議

第一部/人文・社会科学

担当理事 井口 壽乃

日本デザイン学会を含む14学会よりなる藝術学関連学会連合は、シンポジウム開催を主な活動としている。2023年度第17回シンポジウムは「芸術と平和/戦争」をテーマに、6月3日(土)広島平和記念資料館メモリアルホールにて開催を予定している。研究発表および討論者は広島芸術学会、日本演劇学会、日本音楽学会、美術史学会、服飾美学会、意匠学会よりそれぞれ選出され、日本デザイン学会からは井口が実行委員を務める。さらに2023年度活動計画として、2024年度第18回シンポジウム開催に向けての企画・立案を予定している。

日本工学会

担当理事 小野 健太

本工学会は、約100学協会により構成される工学系学術団体である。本年度も新型コロナの影響により、事務研究委員会は昨年度に引き続きメール、オンラインでの開催となっている。昨年度に引き続き、公開シンポジウム、委員会へ積極的な参加を通じて、研究や運営など有効な情報交換を行いたい。

機械工業デザイン賞審査委員会担当

担当理事 小林 昭世

2023年度の日刊工業新聞主催、機械工業デザイン賞(IDEA)は、3月より募集を開始し、審査を進行中である。

横断型基幹科学技術研究団体連合担当

担当理事 蘆澤 雄亮

2023年度も引き続き「コトづくり

至宝発掘事業」への協力を実施する。本年度はこれまでに選定された「コトづくりコレクション」について検討する。

第1支部

支部長 福田 大年

これまでの日本デザイン学会第1支部は、地元市民、学生、社会人、教員らがフラットに交流する場を設け、地域生活に根ざしたデザイン学を模索してきた。COVID-19を経て、地域との関わり方も変化してきた。そこで2023年度は第1支部の地域実践の「これまで」と「これから」を考えていきたい。

2023年度の第1支部大会は、札幌市立大学を幹事校にして10月下旬に対面形式で開催する予定である。大会の詳細は6月の春季研究発表大会後に学会Webサイトに掲載する。

第2支部

支部長 橋田 規子

見学会を2回開催

①「ドットアーキテクツ展 POLITICS OF LIVING ?きるための?学」

2023年7月下旬

【参加方法】対面（館長による説明ツアー方式）

見学場所 六本木 TOTO ギャラリー間

②検討中

第3支部

支部長 黄 ロビン

第3支部では、今年度も引き続き会員の活動・研究を相互に知り合い交流を深めるため、支部「研究発表会」と「懇親会」を実施する。発表内容の梗概集と支部会員の研究報告論文と一緒に、ISSNを取得した「一般社団法人日本デザイン学会第3支部研究発表会概要集」にまとめ、国立国会図書館などに収録する。この支部研究発表会では、学生の口頭発表とポス

ター発表を対象とし、優秀発表賞を設けて表彰する。

次に、学会会員が所属する学校の卒業研究などに対し、大学院生2名/学部生2名に「年間研究奨励賞」を贈る。

また、今年度は研究発表会会場校の新規開拓と幹事会メンバー増員等の強化体制を進めていきたい。

第4支部

支部長 益岡 了

第4支部では研究発表会や支部内の研究会といった近畿・中国・四国地区における学術研究活動を実施・支援してきたが、感染症対策や各機関の活動制限もあって、ここ2年間は積極的な活動が難しい時期が続いた。その間、オンライン会議システムを用いて限定的ながら活動を継続できたが、今年度はそれらの発展を図り研究発表会や支部内の会員、デザイン学生の交流を目指して活動の再活性化を計画する。

また傘下の研究会においても同様の状況があり、実質的な活動については交流会の実施を含めて行い難い日々があった。しかしながら行動制限の緩和が進み、また2025年の大阪・関西万博の実施を念頭ににした各種活動・展示の活発化が見られることから、支部としてのデザイン研究・調査活動の計画が進めている。コロナ以前は分野毎に研究者やデザイナーを招いて講演会やシンポジウムを開催し、参加者との議論を行ってきたがその再開を予定する。横断的なテーマを設定し、研究会の企画・開催。これらの活動を通じて地域間・大学間連携による議論の創出を図る。

また支部の管轄範囲が大きいために、地域ネットワークの拡大と円滑なコミュニケーションを重視した支部活動を推進する。特にデザイン学会の各種研究会だけでなく関連学会支部との共催事業や学生参加も念頭に入れた支部内外の交流に取り組みを支部メンバーの協力を得て検討する。

第5支部

支部長 井上 貢一

2023(令和5)年度の支部事業としては、昨年同様に、10月中旬～11月中旬を目途に「2023年度第5支部発表会」をオンライン形式で実施する予定である。

本発表会では、通常の研究発表大会における口頭発表・ポスター発表に準じる「研究発表」と、デザインプロジェクトの報告や教育機関における演習成果の発表等を目的とした「ライトニングトーク」の2つの発表区分を設ける。

過去4年間のWeb(Wiki)を活用した発表会運営のノウハウを活かし、今年度も支部のWebサイトをプラットフォームとして、第5支部役員の協働により、発表エントリー、発表梗概の執筆、当日のプログラムとオンライン会場の運営を行う予定である。

なお、第5支部の発表会では、支部会員のみなならず、他の支部の方や将来本学会に入会の可能性のある方の発表も歓迎し、特にライトニングトークの枠では、会員が指導する学部学生や、高大連携授業に関わる高校生にも門戸を広げている。

6月以降、支部役員で協議を行い、実施に向けた準備を進める予定である。詳細が決まり次第、会員の皆様へご案内を差し上げる予定である。多くの方の参加を期待したい。

本部事務局

本部事務局長 佐藤 弘喜

長期にわたり、新型コロナウイルスの問題から異例の状況が続いてきたが、最近では収束傾向がみられるため、春季大会、秋季大会の開催などについては徐々に通常体制に戻りつつある。この数年間の状況は困難が多かったが、その対応として導入した、Web会議による理事会開催や会員管理システム、オンライン投票による役員選挙などにより、結果的に今後の学会運営の効率化と会員の利便性の向上を進めることができた。た

だし、まだ会員管理システムには改良すべき点もあるため、部分的な修正を行いながら、本システムの会員への定着を図っていきたいと考えている。また、時代に合わせた一部の会則の見直しなども進めたいと考えている。

引き続き、社会的状況も考慮しながら、各委員会や研究部会、支部活動に対するサポートなどを推進し、学会活動を支援していきたい。事務局は学会の窓口として、今年度も会員の皆様へのサービスを第一に考えた対応を心がけていく所存であり、関係各位のご理解とご協力をお願いしたい。

教育部会

主査 森 香織

前主査の金子武志先生より4月に引き継ぎをしたばかりで、まだ部会の全体像を把握しきれず顕在化した計画ではないが、「デザインと教育」をテーマに年間2～3回の研究会を予定している。2023年度は、細かいテーマの設定よりも、1人でも多くの研究会参加者を募るために幅を広く持たせて、大学や企業のデザイン教育担当者だけではなく、教員養成系大学の担当者や中高の教育現場担当者、そして学校教育を超えて地域活動やNPO法人など広くあらゆるところでの「教育の場」に直面している方々と膝を交えて真摯に語り合うことを目的としたい。

チャットgptの登場やAI絵画のような創作の根本理念をはらむ問題に至るまで、教育の現場ではデザイン活動を取り巻く環境が多様化し急速なスピードで展開している。もはやデザインは造ることよりも考えることを主体にした時代に入っており、一部の専門家の手によるものだけではなく、そのための教育も様々な立場や考え方の人々と協働する時代である。デザインが人間や社会や自然を有機的に繋いでいく術だとすれば、職業に直結するデザイナー教育と同じくらい、創造性を育み人間性を高める教養とし

てのデザイン教育、あるいは学び直しとしてのデザイン生涯教育なども展開していく必要がある。

教育部会では、これらの課題について教育機関という枠組みを超えたところで誰もが自由に語り合えて、新しい価値の創造を共有できることを目指して今年度以降も視野を広げて活動をしていく所存である。

環境デザイン部会

主査 佐々木 美貴

ED部会の2023年度年間テーマも引き続き「サステナブル環境デザイン～SDGs」。世界全体で取り組んでいるSDGsへのED部会員の研究等を共有し、発信する。

第70回春季大会2023年6月25日(日)15時～17時のオーガナイズドセッションでは「みんなで東京湾葛西沖を学び・考える」をED部会提案の企画で行う予定。多様な立場の方とのディスカッションを目指す。OSに合わせてエキスカッションもED部会が企画した屋形船にて葛西海浜公園を巡る予定である。

他に、年間テーマに沿った見学会も計画中。また、機関誌「ED place」が次年度の2024年に100号となる。今年度から記念する100号発行に合わせた企画を計画中である。



葛西海浜公園西なぎさ

タイポグラフィ部会

主査 伊原 久裕

2023年度の具体的な活動計画として、1)講演会の実施、ならびに2)タイポグラフィ部会が企画したデザイン学会特集号の出版を予定している。1)については、書体をテーマとした研究

活動をふまえ、幹事の推薦によりグラフィックデザインの第一線で活躍する小林一毅氏、林規章氏の2名に講演を依頼し、グラフィック造形、作字の観点からのタイポグラフィの原点を探る講演会を開催する。講演会は東京工芸大学を予定している。2)については、「タイポグラフィにおける書体—その研究・デザイン・使用の現在」と題する特集号として編集を行い、夏の出版を目指す。また、タイポグラフィの研究の視野を広げるための活動を継続して行う。

家具・木工部会

主査 石川義宗

第70回春季大会にて3件の口頭発表を行う見込みである。また、その後には部会の総会を行い、当面の方針を話し合う予定である。現在のところ、部会員の寄稿による部会報「家具・木工通信」の作成、家具メーカーへの現地調査などが議題になっているが、2023年度から主査と幹事1名が交代するため、今後の部会の方向性を改めて考えるつもりである。家具分野、木工分野を一つにした本部会は、家具や木工に関する歴史、産業としての発達、さらには、家具の設計の工夫、木材の特性の探求など、文理融合の知見が集まる場になっている。その本部会の良さを大切にしつつ、今後の方向性を考えたい。

デザイン史研究部会

主査 立部 紀夫

コロナ感染予防に留意しながら、対面を基本とした発表形式の研究会を開催したいと考えている。

デザイン科学研究部会

主査 松岡 由幸

本年度は、昨年度に引き続き、デザイン科学の基礎的な理論をテーマとした講習会の実施を教育・資格委員会との共催で実施する。具体的には、

7月28日、31日に、プラスチック製品の企画・デザイン・設計講習会、また8月7日、21日、28日の全3回にわたり、「デザイン科学基礎講座 ～人はなぜ、創造できるのか？」を5名の講師（松岡由幸（慶應義塾大学/早稲田大学）、宮下朋之（早稲田大学）、加藤健郎（慶應義塾大学）、佐藤浩一郎（千葉大学）、井関大介（東京造形大学））でzoom開催する予定である。

さらに、本部会では、2019年に刊行した『デザイン科学事典』に引き続き、デザイン科学に関する教科書のシリーズ化およびデザイン・設計行為に利用される知識をまとめた出版物『現代デザイン・設計学事典（仮称）』の刊行を推進する。7月7日（金）のデザイン塾では、そのキックオフ会として、それら編纂に関する説明を行い、多くの参加者からご意見を頂戴していく予定である。

また、6月に開催される春季大会ではテーマセッション「多空間デザインモデル、デザイン理論・方法論」が企画されており、多くの方々の活発な議論を期待している。

子どものためのデザイン部会

主査 赤井 愛

2023年度は(1)第70回春季大会において11年目となるテーマセッション「子どものためのデザイン」開催、(2)2021年度秋季企画大会で好評であったライトニングトークを当部会の独自企画として実施、の2点を実現したいと考えている。また、下記部会サイトを通じた部会員の研究や活動に関する情報共有、交流を活発にしていきたい。情報発信をご希望の方は主査または幹事までご連絡いただきたい。

(<https://www.facebook.com/design.for.children.jp/>)

プロダクトデザイン研究部会

主査 山崎 和彦

本年度の活動計画については現在検討中であるが、1) 日本デザイン学

会第70回研究発表大会テーマセッション「ビジョンと体験デザイン」の企画、2) プロダクトデザイン研究部会の開催、3) 関連団体(人間中心設計機構、X デザインフォーラム等)とのイベントの開催、4) プロダクトデザイン研究に関する情報発信(日本デザイン学会 Web サイトとプロダクトデザイン研究部会 Facebook 等)などの活動を計画していく予定である。また、今後の検討として研究領域(例えば、ビジョンデザイン、プロダクトサービスデザイン、地域のプロダクト等)の検討なども検討していきたいと考えている。

タイムアクシスデザイン研究部会

主査 柳澤 秀吉

本年度は、昨年度に引き続き、春季大会におけるテーマセッションを実施していくとともに、部会内で議論する場を設定し、タイムアクシスデザイン領域における研究の推進を図っていく。

具体的には、6月に開催される春季大会にて、テーマセッション「タイムアクシスデザイン」と部会の開催を企画している。これらの実施を通して、多くの方々と活発な議論を展開できることを期待している。

2023 年度 予算

2023年度 (2023年4月1日 - 2024年3月31日) 予算 (案)

〔一般会計〕

■収入の部

項目	予算額	予算額内訳	
2022年度繰越金	32,676,124		32,676,124
1 会費 (現)	15,756,000	正会員@13,000×1,392名×0.8(徴収率) 学生会員@6,500×246名×0.8(徴収率)	14,476,800 1,279,200
2 会費 (新)	2,285,000	正会員@18,000×80名 (一般 入会金: 5,000, 年会費: 13,000) 学生会員@6,500×130名(入会金: 免除, 年会費: 6,500)	1,440,000 845,000
3 賛助会員費 (現)	810,000	27件	810,000
4 賛助会員費 (新)	30,000	@30,000×1件	30,000
5 年間購読会員費 (現)	925,000	@25,000×37件	925,000
6 年間購読会員費 (新)	25,000	@25,000×1件	25,000
7 広告費	50,000	@50,000×1件	50,000
8 学会誌掲載料	3,970,000	論文掲載料 ((@40,000×8報)×6冊) 作品集審査費 (@3000×30件) 作品集掲載費 (@40,000×20報) 2022年度作品集掲載費 (@40,000×29件)	1,920,000 90,000 800,000 1,160,000
9 春期研究発表大会	3,793,500	@6,000×276人、参加者370人程度	3,793,500
10 秋季企画大会 (慶應大学)	500,000		500,000
11 雑収入	150,000	学会誌売上 NII-EL5還元金、補助金、預金利息等 その他 寄付	50,000 100,000 0 0
計	60,970,624		60,970,624

2023予算 (繰越金なし)

28,294,500

■支出の部

項目	予算額	予算額内訳	
本部事務局 & 理事会関係	12,024,280		
1 本部事務局経費	10,924,280	消耗品代 運営経費 (春季、秋季大会出張費用含む) 職員給与 (@180,000×12,@230,000×2) + (@150,000×12, @125,000×2) 通勤費 (@6,000×12) + (@15,070×4, @6,000×12) 施設整備費 通信費及び電話代金 印刷代 雑費 会費引き落とし経費 賃貸料 (@150,000×12ヶ月) 光熱費 アルバイト雇用費および時間外手当 経理業務コンサルタント料 会員管理システム利用料 オンライン対応経費 租税公課 法人税、住民税及び事業税 労災保険料	200,000 150,000 4,670,000 204,280 300,000 700,000 200,000 200,000 200,000 1,800,000 200,000 1,000,000 200,000 600,000 50,000 100,000 0 150,000
2 理事会運営費	800,000	会場借用料、理事会運営経費等	800,000
3 選挙経費	300,000	選挙に関する費用	300,000
学会誌審査・編集関係	1,920,000		
4 論文審査委員会経費	700,000		700,000
5 作品審査委員会経費	600,000	2022年度、2023年度分	600,000
6 学会誌編集・出版委員会経費	100,000		100,000
7 特集号編集委員会経費	520,000	第29巻2号編集委員会 第30巻1号編集委員会 第31巻1号編集委員会 第31巻2号編集委員会	130,000 130,000 130,000 130,000
学会誌印刷・通信関係	16,298,000		
8 印刷費	15,098,000	2022年度論文集 (0冊) 2021・2022年度特集号 (3冊) 2022年度作品集 (@23,000×29報) 論文集 (@23,000×10報) ×6冊 特集号 (@2,000,000×2冊) 作品集 (@23,000×30報) 論文集・作品集のオンデマンド印刷費 (@1000×6冊+@3700×1冊) ×130件 概算集CD 封筒代	0 6,000,000 667,000 1,380,000 4,000,000 690,000 1,261,000 400,000 700,000
9 出版物通信費	1,200,000	郵送料・事務代行料金	1,200,000

大会関係		5,560,000		
10	2023年度春季研究発表大会	2,500,000		2,500,000
11	2023年度春季オーガナイズドセッション費用	320,000	@80,000×4件	320,000
12	2023年度春季キーノート講演費用	90,000	@30,000×3件	90,000
13	2023年度秋季企画大会	500,000		500,000
14	2024年度春季研究発表大会（準備金）	500,000		500,000
15	2024年度春季大会総覧編集委員会経費	1,050,000	活動費	50,000
			演題登録システム（PASREG）利用料、データ変換料	1,000,000
16	学会セミナー費用	100,000		100,000
17	総会準備経費	0	総会経費、委任状・資料印刷代	0
18	学会各賞選考委員会経費	100,000	資料作成費・記念品代	100,000
19	国際デザイン会議	300,000	国際デザイン会議会費（500\$）	0
			国際デザイン会議活動費	300,000
20	Designシンポジウム補助費	100,000		100,000
委員会関係		1,500,000		
21	委員会経費	200,000	共通費	200,000
22	研究部会共通経費	500,000	共通費（現行19研究部会）	500,000
23	支部活動補助費	750,000	@150,000×5支部分	750,000
24	市販図書企画・編集経費	50,000	編集費	50,000
広報関係		150,000		
25	広報費	150,000	大会ポスター・通信費、パンフレット作成費	100,000
			ホームページ管理・運営	50,000
その他		23,518,344		
26	学協会関連	315,000	学術会議活動費（@30,000+@30,000）	60,000
			藝術学関連学会連合シンポジウム分担金	15,000
			日本工学会活動費	10,000
			日本工学会会費	40,000
			CPD協議会会費	50,000
			横断型基幹科学技術研究団体連合会費	50,000
			横断型基幹科学技術研究団体連合活動費	30,000
			日刊工業新聞社	30,000
			デザイン関連学会活動費	30,000
27	予備費	23,203,344		23,203,344
計		60,970,624	60,970,624	60,970,624

学会各賞贈呈

功 勞 賞：尾登誠一、井上勝雄（敬称略）

研究奨励賞：山本 早里

公共空間における公共サイン、色彩環境デザインなどに関する総合的、継続的な取組の充実に加えて、構成デザイン、情報プロダクトデザイン、建築デザインという隣接領域の研究をさらに加えて発展させようという取組の発展性に対して。

本学会における参考業績：原著論文 4 件（うち 1 本は年間論文賞）、作品論文 4 件（うち 2 本は年間作品賞（筆頭 1 件、共著 1 件）、年次大会口頭発表 34 件

年間論文賞：古川園 智樹

パターン・ランゲージの誕生 (1)～(4) (vol. 68, no. 1, pp39-48 (クリストファー・アレグザンダー博士論文の「再発見」と分析), pp49-58 (パターン・ランゲージ関連史料の史料分析), pp59-68 (パターン・ランゲージのシステム理論), pp69-78 (パターン・ランゲージの哲学), 2021)

年間作品賞 1：伊藤孝紀、長谷真彩、近藤宏樹、原希望

栄ミナミまちづくり会社によるプレイス・ブランディング（その 2）（b 類）
(vol. 27, no. 1, pp58-61, 2021)

年間作品賞 2：辻村和正、中野太輔、寛康明

Linecraft Modules 形状変化インタフェースの開発と利用をつなぐリサーチプロダクト（b 類）
(vol. 27, no. 1, pp98-103, 2021)

名誉会員証贈呈

121 号 森田 昌嗣 氏

122 号 岡本 誠 氏

123 号 杉下 哲 氏